研究・業績発表年次大会開く

気候変動の緩和策や適応策探る

═ 技術士会中国本部 ═

日本技術士会中国本部（大田一夫本部長）は22日、鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館で「第26回西日本技術士研究・業績発表年次大会in鳥取」を開いた。大会テーマは〝顕在化する気候変動の影響〟。技術士が持つ幅広い知見を集約して、その緩和策と適応策の現状を把握し、これから取り組むべき対策などを考察した。

大会には約130人が参加（オンライン含む）。式典や基調講演、論文発表などが行われた。

式典では、大田本部長が開会挨拶に立ち「近年、土砂災害や水災害は中国地方に限らず全国各地で頻発している。その原因は、地球温暖化の進行がもたらす気候変動の影響とされており、本大会のテーマを『顕在化する気候変動の影響～その緩和策と適応策～』とし、その対応策について技術士の英知を集めて考えることとした」と開催趣旨などを説明した上で「日本技術士会は昨年11月に東京で技術士全国大会を開催。そのテーマは『2030年SDGs達成に向けて技術士ができること～技術士の知恵を活かす～』だった。その際、寺井会長はSDGs達成に向けて技術士が貢献するためには、一過性でなく継続的な取り組みが重要であることを力説された。本大会のテーマもSDGsの目標13『気候変動に具体的な対策を』に該当する。本大会が皆さんにとって有意義であり、SDGs達成に技術士が貢献できる場がより一層拡がることを念願している」と述べた。

このあと、日本技術士会の近藤孝邦副会長が主催者挨拶。来賓出席した与党技術士議員連盟幹事長を務める足立敏之参議院議員や中国地方整備局の森戸義貴局長も挨拶した。

基調講演では、東京大学未来ビジョン研究センターの江守正多教授が『なぜ、今、ゼロカーボンなのか？』、広島大学の海堀正博教授（防災・減災研究センター長）が『近年の異常気象による土砂災害に備えて』を演題にそれぞれ講演。計12題の論文発表では、第1分科会で『緩和策の現状と今後の課題』をテーマとして、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出抑制に向けた低炭素化・省エネ・再エネなどに関する技術的な取り組みが紹介された。第2分科会のテーマは『適応策、2018年7月西日本豪雨の検証を含めて』で、西日本豪雨災害の検証と、これを踏まえた今後の防災・減災のあり方や地域に即した豪雨災害適応型都市づくりなどを考察した。

また、前日の21日には、ホテルニューオータニ鳥取（鳥取市今町）で歓迎レセプションも行われ、新型コロナウイルスの感染拡大によって2年間延期していた年次大会を盛り上げた。

式典のもよう